『元朝秘史』における分詞（形動詞）：主節述語用法を中心に

山越康裕

@AA研フォーラム

2014年10月9日

マクラ(言い訳):そもそもの研究

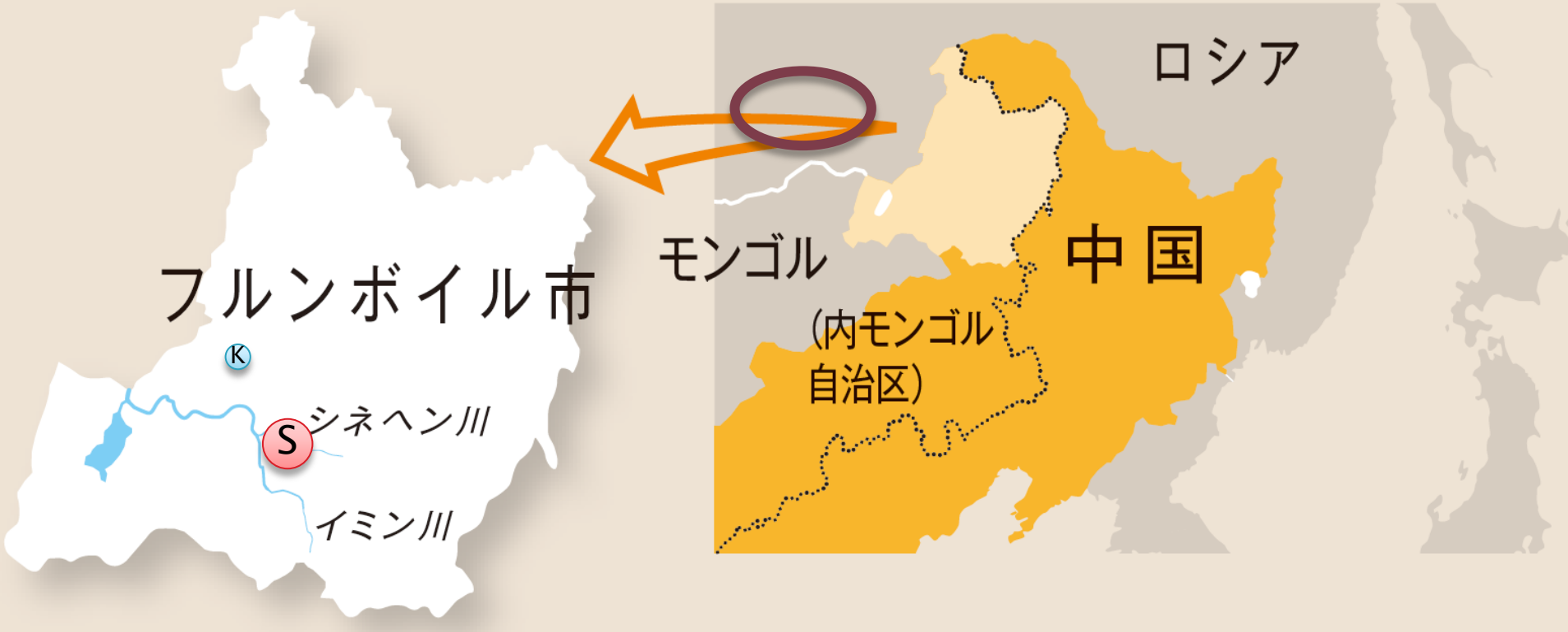
- 中国・内モンゴル自治区北部、呼倫貝爾(フルンボイル)市に暮らす、シネヘン・ブリヤートおよびハムニガンと呼ばれる人々の言語(シネヘン・ブリヤート語／ハムニガン・モンゴル語;いずれもモンゴル諸語)を調査
- シネヘン・ブリヤート語の話者
  - 鄂温克(エウェンク)族自治旗・錫尼河蘇木(シネヘン・ソム)に暮らすシネヘン・ブリヤートおよびハムニガン(エヴェンキ)
  - 話者数約6,000名
- ハムニガン・モンゴル語の話者
  - 陳巴爾虎(ホーチン・バルガ)旗・鄂温克民族蘇木(エウェンク民族ソム)に暮らすハムニガン
  - 話者数訳1,500名

両言語のおおまかな分布

S=シネヘン・ブリヤート語（話者はブリヤート＋ハムニガン）

K=ハムニガン・モンゴル語（話者はハムニガン）

（両言語話者ともに、20世紀初頭までは右地図の〇部分あたりに暮らしていた）



山越 (2014b: 30) より。一部加筆

両言語話者の特徴

- ロシア革命後に越境・亡命。一度に亡命したわけではなく、「1918年以降『満洲国』建国の1932年まで」とされる（山越2002: 113）。
- 亡命後、現在の居住地への居住を認められる。
- 現在、亡命を経験した世代はおらず、いわゆる2世、3世となっている。

何を研究しているのか

- 基本的には両言語の音韻・文法の記述。
- 亡命からほぼ1世紀が経過し、亡命前にはなかった漢語（中国語）からの影響を受けるようになっている。
- また、他のモンゴル語諸方言話者とも恒常的に接触している。
- こうした状況で、言語接触の影響がどのような面に及んでいるのかを把握することをめざしている。

- その一方で、両言語は故地に暮らす人々に比べると母語の保存状態が良好。各村内では母語が日常的に使用されている。潜在的には「危機言語」であるが、深刻な状態ではない。

調査のむずかしさ

- 「現在」の言語の姿を記述しようと努めているが、いざ対面で調査するとなると、話者の思う「あるべき規範的な言語（＝「ただしい〇〇語」「美しい〇〇語」）」で話そうとする。
- とくに作例（elicitation）による調査ではそれが顕著となる。
- いかにして自然な発話を集めるかが課題。
- その反面、自然な発話を分析対象とした場合、そこからの文法の記述というのはなかなか困難（ただしこれを徹底した参照文法として佐藤 (2008) のような例もある）。

あるべき姿（イメージ）



文献研究との類似

⇒文献研究もelicitationできないという点で同様の問題を抱えている。

- ドキュメンテーションによる一次資料を主とした文法研究の可能性を探るうえでも、またシネヘン・ブリヤート語やハムニガン・モンゴル語、モンゴル語諸方言などの北部モンゴル諸語の関係を明らかにするうえでも、文献研究が必要となってくる。
- 文献研究はこれまでにも数多くの研究がなされているが、ある特定の時代にかぎった共時的な記述研究はモンゴル諸語に関しては不十分。
- 幸いにして古典テキストのコーパスは整備されつつある。

文献研究の可能性

⇒より言語の実態に即した文法記述をするために

- 従来のモンゴル諸語の文法記述は、西洋言語の文法研究（より直接的にはロシア語研究）で構築された理論に沿っておこなわれてきた。
- ただし、西洋言語とは大きく異なる文法構造をもつモンゴル諸語（や、他のアルタイ諸語）には適用しにくいケースもある。
- 現在使用される言語の記述だけでなく、従来の古典モンゴル語文法についての再検討も必要。

構成

（マクラ）←済

1. 目的
2. モンゴル諸語の類型的特徴と動詞の屈折
3. 対象テキスト
4. 各分詞形の用例分布
5. 主節述語用法の分析
6. 形容詞との関連
7. まとめ
8. 補足と課題

1. 本発表の目的

- 四部叢刊影印本『元朝秘史』(以下、『秘史』)モンゴル語にみられる「分詞(＝形動詞)」の用法を分析し、以下を指摘する。

1) 現代のモンゴル諸語にみられるような「主節述語用法」が『秘史』においてはごく限定された状況でしか用いられない。おそらく、後の時代にこの用法が拡張していったと推測される。
2) 形容詞の用法と分詞の用法とは類似するところが多い。しかし分詞は副詞的用法をもたないうえ、主節述語としての用法についてはその条件が異なる。
3) 分詞は統語的な語類転換(動詞→形容詞)と言われるが、『秘史』モンゴル語や現代の北部モンゴル諸語の中ではそうみなしにくい。
4) 『秘史』モンゴル語の「未完了分詞」は他の分詞に比べ動詞性を強く残す、定動詞と分詞の中間的形式といえる。
5) 屈折形式を3分類する従来の文法記述は、少なくとも『秘史』モンゴル語には適していない。

2. モンゴル諸語の類型的特徴

- 基本語順は　S–O–V／修飾語–被修飾語。日本語とほぼ似た語順といえる。
- 格や動詞の屈折は、語幹に接尾辞をつけてあらわす。

bii　　ter–iiji　　dood–aa=bʲ.

1SG.NOM　3SG–ACC　　呼ぶ–PTCP.IPFV=1SG

私が　　あいつ–を　　呼ん–だ=私

「私があいつを呼んだ」

- 形容詞は名詞に近い。いくつか手がかりとなる差異があるが、中間的な語もあり、両者の間に明確な境界を引くことは難しい。

2. モンゴル諸語の動詞の屈折

- モンゴル諸語の動詞の屈折形式は、その機能によって三つもしくは四つに大別される。
- **定動詞** / finite form：文末で述語として用いられる（＝文を終止する）
  - 直説法
  - 希求・命令法
- **副動詞** / converb：副詞的に別の動詞を修飾する
- **分詞** / participle（または形動詞（*Rus.* причастие） / verbal noun）：形容詞的に用いられる
  - 小澤 (1993: 116)「形容詞（広く言えば実詞）の職能をもあわせもつ動詞の変化形」
  - Poppe (1954) “The verbal nouns are declinable and possess all characteristics of nouns”

「形容詞的」とは？

- モンゴル諸語の形容詞は、以下四つの機能をもつ。
  - 名詞修飾をする
  - そのままの形で名詞としてはたらく
  - 述語となる
  - 副詞的に動詞を修飾する
- たとえばシネヘン・ブリヤート語の分詞はこれらの機能を有する。

(1) 形容詞と分詞の名詞修飾

形容詞

tere [*idʲ-emxei* targan] =in minii tɔŋsʲee.
その 食べる-V>A 太った =3:POSS 1SG:GEN 同級生
「その食いしん坊のデブは私の同級生だ」

分詞(未来分詞 *V-xA*)

idʲ-xe juumen tɔɔxɔn sɔɔ, *xeregle-xe*
食べる-PTCP.FUT もの 棚 中に 使う-PTCP.FUT
juumen sʲereen deere.
もの 机 上に
「食べる物は棚の中に、使う物は机の上にある」(山越 2006: 143)

(2) 形容詞と分詞の名詞的用法

形容詞

tere [idʲ-emxei *targan*] =in minii tɔŋsʲee.
その 食べる-V>A 太った =3:POSS 1SG:GEN 同級生
「その食いしん坊のデブは私の同級生だ」

分詞(未来分詞 *V-xA*)

sʲinii *uz-x-eer* ene ubsʲn-ii zaha-zʲa
2SG:GEN 見る-PTCP.FUT-INS この 病気-ACC 直す-CVB.IPFV
sʲad-xa =go.
できる-PTCP.FUT =Q
「この病気を治療できますか(*lit.* あなたの見立てでこの病気を治せますか)」(山越 2006: 157)

(3) 形容詞と分詞の(主節)述語用法

形容詞

tere zaloo =sʲni *idʲ-emxei*.

その 若い =2SG:POSS 食べる-V>A

「その若いのは食いしん坊だ」

分詞(未来分詞 *V-xA*)

sʲinii uz-x-eer ene ubsʲn-ii zaha-zʲa

2SG:GEN 見る-PTCP.FUT-INS この 病気-ACC 直す-CVB.IPFV

sʲad-xa =go.

できる-PTCP.NPST =Q

「この病気を治療できますか(*lit.* あなたの見立てでこの病気を治せますか)」(山越 2006: 157)

(4) 形容詞と分詞の副詞的用法

形容詞

sʲii　***hain*** jab-aad　ir-ee　=g　=sʲe.

2SG:NOM　よい　行く-CVB.PFV　来る-PTCP.IPFV　=Q　=2SG

「道中無事だったか（*lit.* お前はよく進んできたか）」

分詞（完了分詞 *V-hAn*）

tii-g-eed　teree-jii=n　sʲax-aad

そうする-E-CVB.PFV　それ-ACC　=3:POSS　押す-CVB.PFV

gar-ga-ha　=mni　onta-zʲai-na.

出る-CAUS-PTCP.PFV　=1SG:POSS　寝る-PROG-PRS

「それでぼくがそれを押し出したら、寝てるんだ」(山越 2014: 192)

分詞は形容詞と同じ特徴を持つのか

- その用法は重なるが、完全に同一とはいいがたい。
- 形容詞が副詞的に用いられる際はそのままの形式でも用いられるが、分詞が副詞節述語となる際には所有人称小詞が後続する。副詞節述語としての用法は限定的。

<u>形容詞</u>

sʲii　　***hain***　jab-aad….

2SG:NOM　よい　　行く-CVB.PFV

<u>分詞(完了分詞 *V-hAn*)</u>

gar-ga-ha　　***=mni***　　onta-zʲai-na.

出る-CAUS-PTCP.PFV　=1SG:POSS　寝る-PROG-PRS

- 通言語的にも分詞は「形容詞化」とみなされるが、シネヘン・ブリヤート語では単純な形容詞化とはいいがたい。
- An inflectional V → A transposition is called a **participle** in many languages (Haspelmath and Sims 2010: 257)

- また、西洋言語の分詞とは異なり、シネヘン・ブリヤート語の「分詞」は動詞的性格を強く残す（e.g. 項構造の保持）＝より屈折的である。
- この特徴はアルタイ諸語に広く見られる。
- より屈折的であるという点から、風間 (2003, 2012) は「分詞」または「形動詞」と呼ぶのは適切ではないとしている。
- 同意。以下、適切ではないことを認識したうえで、理解のために「分詞」とラベル付けする。

- 分詞が多機能であること
- 形容詞の特徴との類似がみられること
- ただしその統語的ふるまいは同一ではないこと
- 分詞が項構造をよく保持していること

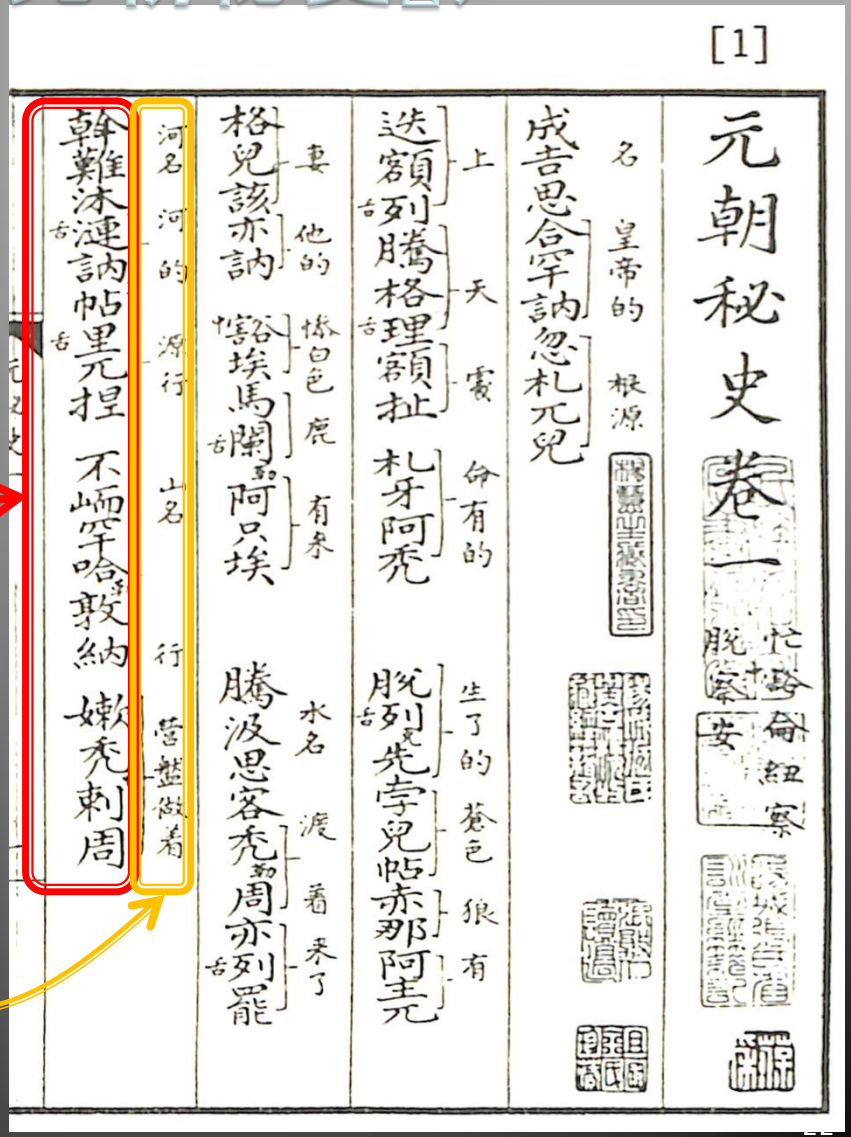
- これらの特徴は北部モンゴル諸語内部でも若干の異なりがある（8にて後述）。

⇒より古い時代のモンゴル語ではどのようなふるまいを見せるのか？

⇒13世紀の中期モンゴル語で書かれたとされる『元朝秘史』を分析対象とし、分詞の用法を確認する。

3. 対象テキスト（四部叢刊影印本『元朝秘史』）

- 13世紀のモンゴル語を14世紀末の漢語（中国語）で音写したものとされる（成立年は未特定）。
- 漢字音写の右側に漢語による傍訳が付されている



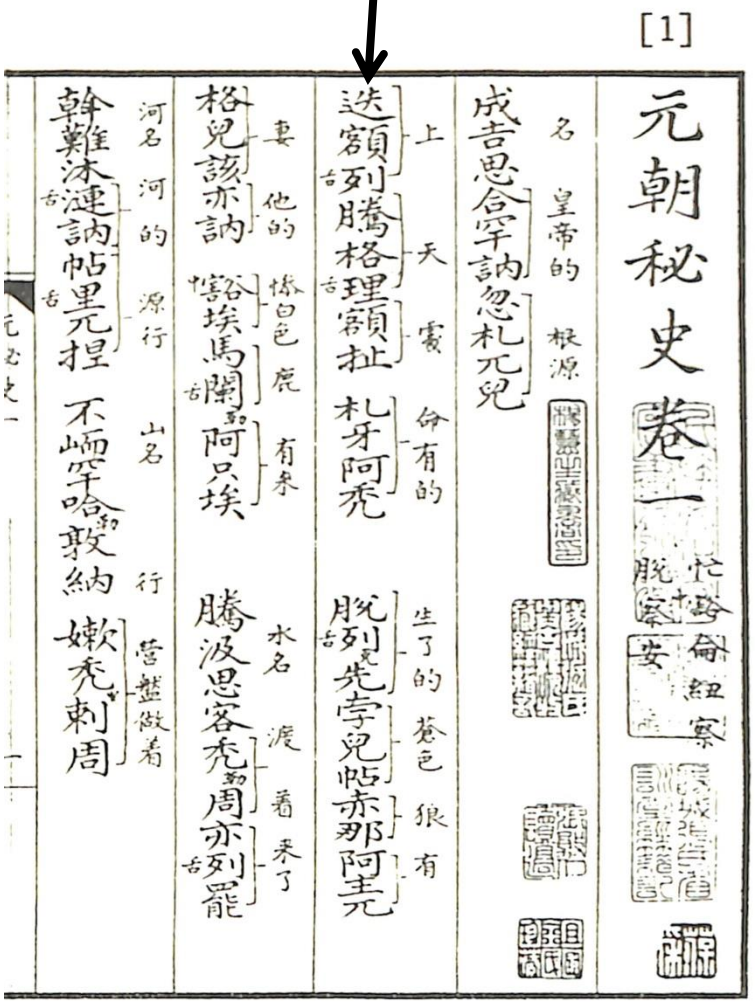
四部叢刊影印本『元朝秘史』

- チンギス・ハーンの族祖伝承にはじまり、チンギスによるモンゴル統一～オゴデイ・ハーンの治世までを物語っている。
- 全体は12巻、各巻はそれぞれ約50丁、各丁は10行で構成されている（前頁の画像は第1丁の前半、5行分）。また、内容は全282節に分けられている（たとえば巻1は第1節から第68節までで構成される）。
- 文の境界は明示されていない。
- ローマ字転写テキストも数多く出ているが、本稿では文境界を付したLigeti (1971) に、さらに形態素境界を付した栗林・确精扎布編 (2001) を用いる。

『秘史』の例文表記

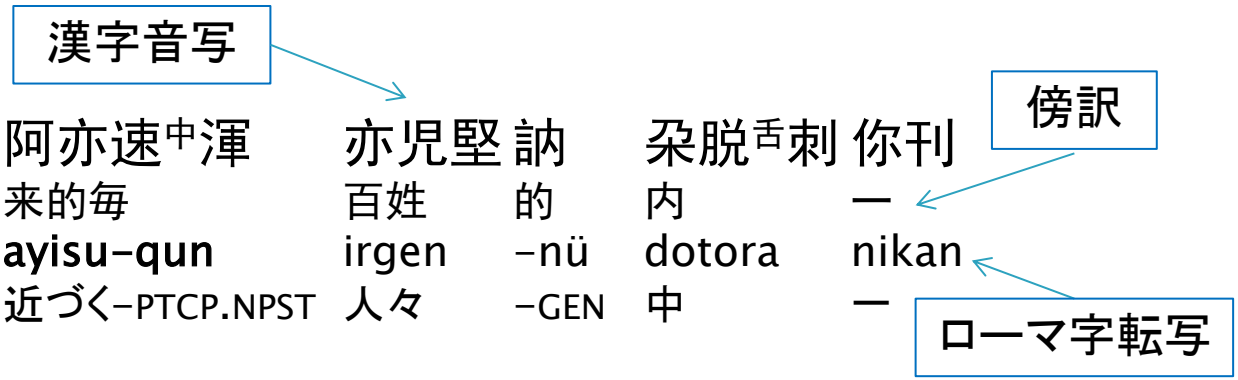
- 栗林・确精扎布編 (2001) は、テキストの節、巻、丁、行にそれぞれ通し番号を付してある。以下、同様に例文の位置を [§節. 巻:丁:行] で示す。
- 日本語訳は小澤訳 (1997a, 1997b) を用い、それぞれの引用ページを (上: xx) / (下: yy) のように示す。

第1節、巻1の1丁3行目
⇒ §1. 01:01:03



『秘史』の転写テキスト

- 次スライド以降は漢字音写・傍訳を省略し、ローマ字転写、文法情報つき逐語訳、和訳のみ示す。



(5)

帖迭	耨兀周	阿亦速中渾	亦児堅 訥	朶脱舌剌	你刊
那的每	起着	来的每	百姓 的	内	一
tede	newü-ǰü	**ayisu-qun**	irgen -nü	dotora	nikan
それら	移動する-CVB.IPFV	近づく-PTCP.NPST	人々 -GEN	中	一

合剌兀台	帖児格	訥	完只勒格迭	你刊	斡勤	撒因	備由
黒	車	的	前行	一箇	女	好	有
qara'utai	tergen	-ü	ölǰige-de	nikan	ökin	sayin	buy-yu.
黒い	車	-GEN	前室-DAT	一	娘	良い	ある-DED.PRS

「かの移り来たる人衆の中に、一台の黒枠の車の前室に、一人の好き乙女あり（上: 14）」[§6. 01:04:03-04]

4.『秘史』にあらわれる分詞

- 以下の5種類が認められる（カッコ内は『秘史』中にあらわれる異形態）。

1. 動作者V-QČI (V-qči/-kči; V-qčin)
2. 習慣V-DAQ (V-daq/-dek)
3. 完了V-QSAN (V-qsan/-ksen/-sen; V-qsat/-qsad/-kset/-ksed)
4. 未完了V-AA (V-a/-e; V-ai/-ei)
5. 現在・未来V-QU (V-qu/-kü/-gü; V-qui/-quy/-ḳui/-ḳuy/-küi/-küy/-qüi/-güy; V-qun/-kün/-gün)

- この5種類は用例の分布・用法ともそれぞれ異なる。

- 以下、各形式別に概観する。

4.1 動作者V-QČI(全11例)

- 名詞修飾節述語として6例、名詞節述語として5例。

(6) V-QČI/ 名詞修飾節(6例)

čisu-tu	tonoq	***ab-u-qči***
血-PROP	剥ぎ取られたもの	取る-E-PTCP.AGT

ǰirgin	ba'atu-d-i	ǰisü-ǰü	qubiya-ǰu
PRN	英雄-PL-ACC	切り裂く-CVB.IPFV	分ける-CVB.IPFV

gürge-ldü-n	yada-bai.
行きわたる-RCP-CVB.MOD	できない-PST

「血染めの剥脱物を好んで取るヂルキン族の勇士達にちりぢりに分けたが、総てに行きわたらせ得なかった(下: 13)」[§187. 07:04:04-05]

4.1 動作者V-QČI(全11例)

- 名詞修飾節述語として6例、名詞節述語として5例。

(7) V-QČI/ 名詞節(5例)

de'ü+ner-iyen　***ala-qči***　bol-ba　ke'e-ǰü...

弟妹+PL-REFL　殺す-PTCP.AGT　なる-PST　言う-CVB.IPFV

「『己が弟達の殺し屋たりぬ』とて...」[§177. 06:24:02]

4.2 習慣V-DAQ(全3例)

- すべて名詞修飾節述語として用いられている。

(8) V-DAQ/ 名詞修飾節(3例)

ǰamuqa	***yabu-daq***	kele-tü	bü-le'e.
PRN	行く-PTCP.HBT	言葉-PROP	ある-PST

「ヂャムカは、饒舌の人なり(*lit.* よく行く言葉持ちであった)(上: 199)」[§167. 05:43:01]

4.3 完了V-QSAN（全453例）

- 名詞修飾節述語が281例；名詞節述語が170例、主節述語と思しき形式が2例。

(9) V-QSAN/ 名詞修飾節（281例）

bari-ǰu　　***ab-u-qsan*** eme　　bü-le'e.

つかむ-CVB.IPFV　取る-E-PTCP.PFV　女　　ある-PST

「とらえ娶りし女なり（上: 28）」[§41. 01:24:05-06]

4.3 完了V-QSAN(全453例)

- 名詞修飾節述語が281例;名詞節述語が170例、主節述語と思しき形式が2例。

(10) V-QSAN/ 名詞節(170例)

ecige-lü'e min-u anda *ke'e-ldü-ksen* ečige

父-COM 1SG-GEN 盟友 言う-RCP-PTCP.PFV 父

metü büi ǰe.

のような ある MOD

「わが父と盟友と云い合いたるは、父のごときものなり(上: 76)」[§96. 02:39:05-06]

4.3 完了V-QSAN（全453例）

- 名詞修飾節述語が281例；名詞節述語が170例、主節述語と思しき形式が2例。

(11) V-QSAN/ 主節？（2例）

(angqa urida anda bolulča-run temüǰin harban niken nasutu bü-küi-tür ǰamuqa quraltuq ši'a temüǰin-e ökcü temüǰin-ü činggültüktü ši'a [aralji-ju] anda bolu-lča-ju)

anda ***ke'e-ldü-ksen***.

盟友 言う-RCP-PTCP.PFV

- 「（はじめ、さきに盟友になり合った時、テムチンの11歳の時、チャムカは獐鹿製の髀骨をテムチンに与え、テムチンの銅製の髀骨と換え合い）「盟友」と言い合った…（上：108）」[§116. 3:26:01-05]

4.4 未完了V-AA（全43例）

- 名詞修飾節述語と思しき形式が2例；名詞節述語と思しき形式が18例、主節述語用法が23例。

(12) V-AA/ 名詞修飾節？（2例）

bari-ldu-a bartan ba'atur-un kö'ün-eče

つかむ-RCP-PTCP.IPFV PRN 英雄-GEN 子-ABL

alus barqaq-un omoq-tan kö'üt-tür

かけ離れて PRN 傲慢-持ちの者 子:PL-DAT

nökö̆če-kün bol-u-n...

仲間となる-PTCP.NPST なる-E-CVB.MOD

「相争ってバルタン・バァトゥルの子から飛び越えて、バルカクの驕れる子達と交わるに及び...（上: 150; 一部改変）」[§140. 04:28:10-29:02]

4.4 未完了V-AA（全43例）

- 名詞修飾節述語と思しき形式が2例；名詞節述語と思しき形式が18例、主節述語用法が23例。

(13) V-AA/ 名詞節？（18例）

qun-nu görö'esü quya in-u niketele

崖-GEN 獣 後腿 3SG-GEN 一つになるほど

šiqa-ǰu ***ög-ü-ei*** bü-le'e ǰe bi.

しめつける-CVB.IPFV 与える-E-PTCP.IPFV ある-PST MOD 1SG:NOM

「山崖の獣を、その後脚一揃えにおさえ与えしものぞ、我（上：237）」[§179. 06:36:09-10]

4.4 未完了V-AA（全43例）

- 名詞修飾節述語と思しき形式が2例；名詞節述語と思しき形式が18例、主節述語用法が23例。

(14) V-AA/ 主節（23例）

bi	kö'ü-ben	Temüǰin-i	güriget-te	talbi-ǰu
1SG:NOM	子-REFL	PRN-ACC	婿-DAT	置く-CVB.IPFV
ire-rün	ǰa'ura	Tatar	irgen-e	***oyisulaqda-a***
来る-PREP	間	PRN	人衆-DAT	謀られる-PTCP.IPFV

bi.
1SG:NOM

「我、己が子テムヂンを婿に置き帰り来たるにその途次、タタル人衆にひそかに一服盛られたり」[§68. 01:49:01-03]

4.5 現在・未来V-QU（全871例）

- 名詞修飾節述語用法が210例；名詞節述語用法が477例、主節述語用法が184例。

(15)（＝(5)） V-QU/ 名詞修飾節（210例）

tede newü-jü ***ayisu-qun*** irgen-nü dotora

それら 移動する-CVB.IPFV 近づく-PTCP.NPST 人々-GEN 中

nikan qara'utai tergen-ü ölǰige-de nikan ökin sayin

一 黒い 車-GEN 前室-DAT 一 娘 良い

buy-yu.

ある-DED.PRS

「かの移り来たる人衆の中に、一台の黒枠の車の前室に、一人の好き乙女あり（上: 14）」[§6. 01:04:03-04]

4.5 現在・未来V-QU（全871例）

- 名詞修飾節述語用法が210例；名詞節述語用法が477例、主節述語用法が184例。

(16) V-QU/ 名詞節（477例）

te'ün-ü　qoyina-ča　duyal-ǰu　to'oriqa-ǰu
それ-GEN　後ろ-ABL　小躍りする-CVB.IPFV　廻る-CVB.IPFV

ayisu-qun-i　üǰe-ǰü　basa　Tayang qan
近づく-PTCP.NPST-ACC　見る-CVB.IPFV　再び　PRN

ǰamuqa-dača　asa[q]-ču'u.
PRN-ABL　尋ねる-PST

「その後から小躍りして廻り近づく者達を見てまた、タヤン罕はチャムカに尋ねた（下: 27）」[§195. 07:34:09-35:01]

4.5 現在・未来V-QU（全871例）

- 名詞修飾節述語用法が210例；名詞節述語用法が477例、主節述語用法が184例。

(17) V-QU/ 主節（184例）

edö'e	qarangkui	söni	ker	*ol-qun*	bida.
今	真っ暗	晩	どのように	得る-PTCP.NPST	1PL.NOM

「今、暗き夜に、どうして見つけ出すべきか、我等（上: 66）」
[§83. 02:20:05]

4.6 用例の分布

	名詞修飾節	名詞節	主節	総数
動作者 V-QČI	6	5	0	11
習慣 V-DAQ	3	0	0	3
完了 V-QSAN	282	171	**2**	453
不完了 V-AA	**2**	**18**	**23**	**43**
現在･未来 V-QU	210	477	**184**	871

4.6 用例の分布

- 主節述語用法の用例分布に大きな偏りが見られる。
  - 不完了／現在・未来分詞では多用⇔完了分詞ではごくわずか（動作者／習慣分詞は用例が少ないため判断できない）。
- 副詞節述語として機能している例が確認されない。

※従来ひとまとめに分類されてきた「分詞」だが、各形式の機能は同一ではない。

- 主節述語用法に何らかの特徴があるのかどうか、以下、完了分詞、未完了分詞、現在・未来分詞の3形式について、それぞれの主節述語用法を中心に用例を確認する。

5.1 完了分詞の主節述語用法

(11再掲) V-QSAN/ 主節？(2例)

(angqa urida anda bolulča-run temüǰin harban niken nasutu bü-küi-tür ǰamuqa quraltuq Si'a temüǰin-e ökcü temüǰin-ü činggültüktü Si'a [aralji-ju]　anda bolu-lča-ju)

anda　***ke'e-ldü-ksen***.

盟友　　言う-RCP-PTCP.PFV

- 「(はじめ、さきに盟友になり合った時、テムチンの11歳の時、ヂャムカは獐鹿製の髀骨をテムチンに与え、テムチンの銅製の髀骨と換え合い)「盟友」と言い合った…(上: 108)」[§116. 3:26:01-05]
- Ligeti (1971) では直後にピリオドが打たれ、文が終止しているように見える。しかし、小澤訳 (1994a: 108) による日本語訳では次のように文が終止せず、続いている。
- 地の文にあらわれている。

5.1 完了分詞の主節述語用法

(11') V-QSAN/ 主節？(2例)

anda *ke'e-ldü-ksen*.

盟友　言う-RCP-PTCP.PFV

(onan-nu mölsün-ṭür ši'alǰa-qui-ṭur tende anda ke'e-ldü-le'ei.)

- 「「盟友」と言い合った(オナン河の氷上で髀骨を投げて遊び、そこに盟友と言い合ったのである)(上: 108)」[§ 116. 3:26:01-05]
- (主節述語と判断することも可能だが、)onan(オナン河)を修飾する名詞修飾節とも判断できる。

5.1 完了分詞の主節述語用法

(18) V-QSAN/ 主節？

ede　qadal-u-n　da'u-n　qarbisu-an

これら　咬む-E-CVB.MOD　追う-CVB.MOD　胞衣-REFL

qaja-qsat　quyyi-yan　***tasul-u-qsat***.

噛み切る-PTCP.PFV　臍緒-REFL　断ち切る-PTCP.PFV

qasar　yeki-be.

PRN　どうする-PST

「汝等、咬みつつ己が胞衣を噛みきりたる、己が臍緒を断ちきりたる者達よ、カサルの何をなせるや（下: 142）」[§255. 10:29:08-09]

- ここもピリオドが打たれているが、ここは相手に対して呼びかけをしている独立成分と解釈される。

5.1 完了分詞の主節述語用法

※疑わしい2例は、それぞれ名詞修飾節、名詞節の述語として機能しているのでは？

※そうだとすると、完了分詞の主節述語用法はないということになる。

5.2 未完了分詞

- 未完了分詞 V-AA の主節述語用法については、23例中21例が台詞の中で用いられている、という傾向を除き、その制約が判然としない。
- 一方、名詞修飾節述語、名詞節述語として用いられている例は、以下のような傾向がある。
- 名詞修飾節述語（2例）
  - （12）にあげた例は小澤訳 (1994a: 150) では直後の名詞「バルタン・バァトゥルの子」を修飾しているようには読み取れないが、実際には名詞修飾していると判断可能。
  - 残りの1例（次スライド (19)）は未然否定üdü'üi「まだ～ない」と結びついた形式が他の名詞を修飾しており、V-AA自体が他の名詞を修飾しているとは言えない。

5.2 未完了分詞

(19) V-AA/ 名詞修飾節？

Alan_qo'a nere-tei gü'ün-ne ber

PRN 名前-PROP 人-DAT また

ök-te-ei *üdü'üi* ökin a-ǰu'u.

与える-PASS-PTCP.IPFV NEG.IPFV 娘 ある-PST

「アラン・ゴアという、人には与えられていない乙女がいた（上: 15）」[§7. 01:04:10-05:01]

未完了否定(V-AA#üdü'üi)

- このüdü'üiは『秘史』中に13例。
- いずれも未完了分詞の直後にあらわれる。
- 現代のモンゴル諸語では接尾辞として確認される。
  - ブリヤート語ハムニガン・モンゴル語、モンゴル語ホルチン方言などで***V-AA-düi*** は用いられている。
  - モンゴル語の他の諸方言ではir-ee-düi [来る-PTCP.IPFV-DÜI]「未来」という語彙に残る。
- 接続する形式が限定されていることから、üdü'üiは非自立的要素と考えられる。
- V-AA#üdü'üi までが屈折範疇？
- üdü'üi による形容詞化？

5.2 未完了分詞

- 名詞節述語（18例）
  - このうち12例は未然否定üdü’üi「まだ～ない」と結びついた形式に、与格接尾辞 -eが接続している（下例）。
  - 残りの6例は直後に存在動詞bü-/ a- が後続している。

(20)

nama-yi *ala-ai* *üdü’üy-e* öter qari-tqun.

1SG-ACC 殺す-PTCP.IPFV NEG.IPFV-DAT 速い 帰る-2.OPT

「我を殺さざるうちに疾く帰れ（上: 180）」[§149. 05:03:07-08]

5.2 未完了分詞

- 名詞節述語（18例）
  - このうち12例は未然否定üdü'üi「まだ～ない」と結びついた形式に、与格接尾辞 -eが接続している（下例）。
  - 残りの6例は直後に存在動詞bü-/ a- が後続している。

(21)（=(13)）

qun-nugörö'esüquya in-u niketele

崖-GEN 獣 後腿 3SG-GEN 一つになるほど

šiqa-ǰu ***ög-ü-ei*** bü-le'e ǰe bi.

しめつける-CVB.IPFV 与える-E-PTCP.IPFV ある-PST MOD 1SG:NOM

「山崖の獣を、その後脚一揃えにおさえ与えしものぞ、我（上: 237）」[§179. 06:36:09-10]

5.2 未完了分詞

- 名詞節述語（18例）
  - 未然否定üdü'üi「まだ～ない」と結びついた形式については、名詞修飾節のケースと同様、#üdü'üiによる形容詞化と考えられる。
  - 存在動詞bü-/ a- が後続するという条件は、「名詞節」であることの十分条件ではない。
  - 他の分詞の名詞節述語用法では、主語もしくは各接尾辞を伴った形での用例があるが、未完了分詞にはない。
  - 存在動詞はコピュラ的に用いられているが、その直前には分詞や名詞・形容詞だけでなく、副動詞なども位置しうる。

5.2 未完了分詞

(22) <kü'ün-ü'en Temüǰin-e od-u-n bara-qsan irge orqo-ban dörben külü'üd-iyen ilē-ǰü abura-ǰu ökte-be.> ***ke'e-ǰü*** bü-le'e či.

言う-CVB.IPFV ある-PST 2SG:NOM

「『己が子テムヂンに、果て去りし己が人衆・一族を、四傑を遣わし救い与えられたり』と云いたるぞ 汝(上:234)」[]

5.2 未完了分詞

- ~~副動詞+コピュラの例~~　どうも他の分詞と違う。
- V-AAという形式は、他の分詞に比べても動詞性が強い？
- 名詞節述語用法を持たず、名詞修飾節・主節述語としてのみ機能しうる形式か。
- 他の分詞と同様に扱うのは問題。
- 従来の3分類（定動詞・副動詞・分詞）にわける記述方法だと適切に記述できない。

5.3 現在・未来分詞の主節述語用法

- 現在・未来分詞V-QUが主節述語として用いられている例は184例確認される。いずれも台詞の中で用いられている。
- これらが用いられた文には、以下の要素のいずれか、もしくは複数が含まれている例が多い。
  - 疑問詞（wh疑問に用いられる語類）
  - 疑問小詞（yes/no疑問で用いられる付属語ū, ǖ）
  - 否定小詞（ülü V, ese V, V ügei）
  - 条件副動詞（V-ASU）

約7割が反語表現

5.3 現在･未来分詞の主節述語用法

V-QUの主節述語用法184例と、他の要素との共起関係

WH	WH +COND	WH +NEG	WH +NEG +COND	Y/N	Y/N +COND
74	17	1	0	19	10
Y/N +NEG	Y/N +NEG +COND	NEG	NEG +COND	COND	NONE
5	3	17	13	12	13

5.3 現在･未来分詞の主節述語用法

(22) 疑問小詞との共起

uruq-un gü'ün-eče ***bol-quy*** ***ū***.

親族-GEN 人-ABL なる-PTCP.NPST Q

「親族の人よりならばよからんか（下: 221）」[§272. 12:21:09]

(23) 否定小詞との共起

tenggeri-de ***ülü*** ***ta'ala-qda-qun*** bida.

天-DAT NEG 好む-PASS-PTCP.NPST 1PL:NOM

「天神に愛しまれまじ 我等（上: 200）」[§167. 05:44:03]

5.3 現在・未来分詞の主節述語用法

(24) 条件副動詞との共起

edö'e bida basa čeri'üt ǰasa-ǰu *qarqa-asu*

今 1PL:NOM 再び 兵士ら 直す-CVB.IPFV 出す-CVB.COND

basa Mongqol-a *daru-qda-asu* qala'ar balaqat

再び PRN-DAT 圧する-PASS-CVB.COND 必ず 城

balaqat-dur-iyan *butara-qun* tede.

城-DAT-REFL 四散する-PTCP.NPST 1PL:NOM

「今、我等が再び軍兵を整えうち出で、再びモンゴル族に破るれば、必ずや己が城塞ごとに散り去るべし 彼等（下: 164）」[§248. 11:04:09-05:01]

- 疑問・否定・条件副動詞などの標識と呼応関係にある。

⇒「係り結び」的な文か。

5.3 現在・未来分詞の主節述語用法

13例の「例外」は、いずれも何らかの条件、もしくは理由などの因果関係を示す節や文が先行し、義務・意志・確実性の高い推量など[＋モダリティ]の意味をあらわす。

(25)

tuqar bida　ya'u ke'eldü-le'ei.　kele-ben

先に　1PL:NOM　何　言い合う-PST　舌-REFL

abda-qun.

取られる-PTCP.NPST

「いまさき、我等は何と云い合いたるや。己が舌を引き抜かるべき（上. 202）」[§169. 05:49:02]

※イェケ・チェレンが「テムジンを捉えん」と言ったことに対し、息子ナリン・ケイェンが「（そのようなことを言ったら、）自分の舌を引き抜かれる（引き抜かれても仕方ない）」と注意している（小澤訳 1997a: 214-215）

5.3 現在・未来分詞の主節述語用法

⇒「V–ASUを述語にもつ条件節」を伴う構文からの類推で用いられるようになった？

⇒『秘史』全12巻のうち、この13例は巻5以降にあらわれる（疑問・否定・条件標識と共起した例にはこうした偏りは見られない）。

§1	§2	§3	§4	§5	§6
0	0	0	0	2	0
§7	§8	§9	§10	§11	§12
3	3	1	1	0	3

5.3 現在･未来分詞の主節述語用法

『秘史』は数度にわけて編まれたとする先行研究の指摘（e.g.小林 1954, 植村1955, 小澤1994, Rachelwitz 2004, etc. ）

⇒前半と中盤以降が別の時期に編まれた可能性もある。

ここで編年が異なるという点については多くの先行研究で意見が一致。

§1	§2	§3	§4	§5	§6
0	0	0	0	2	0
§7	§8	§9	§10	§11	§12
3	3	1	1	0	3

6. 形容詞との関連性

- 『秘史』モンゴル語の形容詞は、現代のモンゴル諸語同様に名詞修飾・名詞的・副詞的用法がある。
- 述語として用いられる場合、そのほとんどは存在動詞 bü–/ a– をともなう。
- ただし、ke'e–「言う」に導かれる節の述語としては存在動詞をともなわずに単独で用いられている。

- ⇒分詞の用法とは合致しない（そもそも分詞が副詞的に用いられている例も確認されない）

6. 形容詞との関連性

(26) mör-tür tan-u görö'esün ***olon*** büi ǰe.

経路-DAT 2PL-GEN 獣 多い ある MOD

「汝等の途路に猟獣多くあるぞ」[§199. 08:08:02]

(27) Naiman irgen ***olon*** ke'e-kde-müi.

PRN 人々 多い 言う-PASS-PRS

「ナイマンの人衆多しと云わる（下. 22）」[§193. 07:23:09]

7. まとめ

- 『秘史』モンゴル語の分詞の特徴
  - 主節述語用法が限定された条件（＋モダリティ）でのみ用いられる
  - 「分詞」とされる未完了分詞V-AAは、他の分詞と性質が異なり、定動詞と分詞の中間的な形式のようにみえる
  - 屈折形式の3分類は概要をつかむには適しているが、各形式ごとにその機能を記述する必要がある。

- 形容詞との関連
  - 形容詞は副詞的用法があるが、分詞にはない
  - 述語用法（主節述語用法）がまれである点は共通するが、その出現環境は異なる
  - 現代のシネヘン・ブリヤート語以上に、形容詞との差異は大きい

7. まとめ

- より古い時代のモンゴル語では、「分詞」とされる形式の機能は現代の北部モンゴル諸語よりもより限定的だったと考えられる。
- 通時的に機能が拡張していった（主節述語として多用されるようになった）とすれば、それは何が影響しているのか？
  - 形容詞の機能拡張（述語用法の多用）？
  - 現在・未来分詞の主節述語用法にみられる「＋モダリティ」の機能が他の分詞にも拡張された？

8. 補足と課題 (1)

- 現代の北部モンゴル諸語とおおまかに比べてみると、分詞の主節述語用法について以下のようにふるまいが異なっている。
- より北に行くほど分詞の主節述語用法が用いられている。
- 完了分詞の主節述語用法はなぜ発達したのか？
- 周辺言語の影響があるのか？

○＝あり △＝条件付き可 ×＝なし	分布	習慣	完了	未完了	未来
ハムニガン・モンゴル語 シネヘン・ブリヤート語	ロ 中	○	○	○	○
モンゴル語ハルハ方言	モ	○	○	×’	△
モンゴル語チャハル方言 モンゴル語ホルチン方言 オイラト語（カルムィク語）	中	○	△	×’	△
『秘史』モンゴル語		×	×	○	△

8. 補足と課題 (2)

- 欧米の研究者は、アルタイ諸言語の分詞の主節述語用法を「**コピュラの省略**」とみなすことが多い（Poppe 1954, etc.）。

※ここでいうコピュラには存在動詞a- / bü- が該当する。コピュラとみなしてよいかどうかも検討の余地がある。

- 分詞は「形容詞の用法をもつ（動詞の）派生形」であり、「文」は原則、定動詞（＝終止形）が述語となる、という西洋言語のふるまいを基本とみなしているためだろう。

- 類型的に似たタイプのエヴェン語（ツングース諸語）について、Malchukov (2013) は「コピュラの省略による分詞の再動詞化」であり、広義の「言いさし（insubordination）」だとし、これが広くシベリアの諸言語（モンゴル含む）に共通する地理的類型であるという仮説を立てている。

8. 補足と課題 (2)

- 「言いさし」文が証拠性（e.g.「明日電話するって」）や義務（e.g.「早く行ったら？」）などモダリティに関与するという特徴と、エヴェン語などの分詞述語文が同じく証拠性に関わることとを関連づけた解釈。

- しかし「コピュラの省略」という解釈は妥当か？（少なくともモンゴル諸語においては、この仮説を積極的に支持する根拠がない）

8. 補足と課題 (2)

- 『秘史』モンゴル語の現在・未来分詞に関しては、たしかに推量・義務などの意味合いが加わっており、定動詞述語文との対比ができる（古典日本語の「係り結び」vs.「終止形」も似ているか）。
- しかしながら、分詞が文末で多用される現代のモンゴル語ハルハ方言やシネヘン・ブリヤート語、ハムニガン・モンゴル語では、定動詞vs分詞に証拠性やモダリティによる使い分けがあるようには見えない。

8. 補足と課題 (2)

- シネヘン・ブリヤート語では、むしろこうした対立は以下のように人称標識の使い分けで区別される。(29)(30) のような表現は「言いさし」だと発表者は考えてきた（けれども違うかもしれないと先週から思い始めた）。ただし (29)(30) の直後に存在動詞は許容されない。

(28) bii ɔdɔɔ *jab-xa=b^{j}*.
1SG:NOM 今 行く-PTCP.FUT=1SG
「私はもう行きます」

(29) bii ɔdɔɔ *jab-xa=mni*.
1SG:NOM 今 行く-PTCP.FUT=1SG:POSS
「私はもう行かないと」

(30) xaloon *bɔl-xɔ=ni*.
あつい なる-PTCP.FUT=3:POSS
「（外の様子を見て）今日はきっと暑くなる」

8. 補足と課題 (2)

- Malchukov (2013) が問題としているエヴェン語のケースも、同様に文末で[分詞+所有者人称]が用いられている(これはコピュラを続けた場合も許容されるらしい)。

(31) bej-il hör-ri-***ten***.

man-PL go-PST-3PL:POSS

"The men left." [Malchukov 2013: 182]

※分詞の主節述語用法が地理的類型であるとはいっても、①コピュラの省略とは言いにくい場合もある、②分詞の主節述語用法がすべて同様に広義の「言いさし」とは言いがたい。

8. 補足と課題 (2)

(31) bej-il hör-ri-***ten***.
man-PL go-PST-3PL:POSS
"The men left." [Malchukov 2013: 182]

※むしろこれは「名詞化」であることを所有人称標識によって明示しているということではないか。先ほどの (29)(30) も同様。⇒名詞述語文は動詞述語文よりも話者の価値判断をともなう(e.g. ノダ文)。

※分詞の文末用法が頻繁におこり、定動詞にとってかわりつつあるような言語(モンゴル語ハルハ方言やブリヤート語)で、所有人称が文末に位置する用法があることと、シベリアの諸言語で分詞述語文がモダリティにかかわる現象とが並行して対応している。

※今後この点について考えを整理したい。

8. 補足と課題 (2)

[定動詞（動詞述語） vs. 分詞（名詞述語）]←『秘史』モンゴル語
（名詞述語文には価値判断が伴いやすい）
↓↓↓
分詞が文末で多用・定動詞化＝動詞述語化
↓↓↓
[定動詞・分詞（動詞述語） vs. 分詞＋所有人称（名詞節化）]←
（所有人称標識は形容詞などを名詞的に用いる際に付加される
＝「名詞化」していることを明示する機能）

モンゴル語ハルハ方言
シネヘン・ブリヤート語

8. 補足と課題 (2)

	無標	＋価値判断
	動詞述語文	名詞述語文・コピュラ文
『秘史』モンゴル語	定動詞	未来分詞 （疑問・否定・条件）
ユカギール語 （長崎2013: 49）	定動詞	分詞＋間接証拠接辞 （証拠性）
モンゴル語ハルハ方言 シネヘン・ブリヤート語	定動詞・分詞	未来分詞＋所有人称 （推測・義務）
エウェン語 （Malchukov2013: 182）	定動詞（・分詞）	分詞＋所有人称 （証拠性）
サハ語 （江畑2013: 17）	定動詞・分詞	分詞中立時制＋所有人称 （過去の事態に対する推測）
ウイルタ語？ （池上2001: 158）		不完了動名詞-ri+見込み動名詞-li+所有人称 （間接証拠）

8. 補足と課題 (3)

- モンゴル諸語（はじめアルタイ諸言語）では「文」をどのように規定するべきか（本来、これが定まっていないと主節か否かを論じることはできない）。現時点では循環論にはまってしまう（定動詞が位置したら文末⇔文末に定動詞が置かれる）。
- シネヘン・ブリヤート語やハムニガン・モンゴル語のような述語人称標識を持つタイプであれば、動詞の形式に関わらず規定可能。
- ただしアルタイ諸言語の中には述語人称標識と所有人称標識の区別をつけづらい言語（e.g. サハ語）や、そもそも述語人称標識を持たない言語（e.g. モンゴル語諸方言）がある。
- 文献に残る言語の場合、イントネーションパターンで判断することも不可能。

略号一覧

–: 接辞境界 / #: 語境界 / =: 付属語境界 / 1, 2, 3: 人称 / ABL: 奪格 / ACC: 対格 / AGT: 動作主 / CAUS: 使役 / COM: 共格 / COND: 条件 / CVB: 副動詞 / DAT: 与位格 / DED: 演繹的 / E: 挿入音 / FUT: 未来 / GEN: 属格 / HBT: 習慣 / INS: 具格 / IPFV: 未完了 / MOD: モーダル / NEG: 否定 / NOM: 主格 / NPST: 非過去 / PASS: 受動 / PFV: 完了 / PL: 複数 / POSS: 所有者 / PREP: 準備 / PRN: 固有名 / PROG: 進行 / PROP: ～持ちの / PRS: 現在 / PST: 過去 / PTCP: 分詞 / Q: 疑問小詞 / RCP: 相互 / REFL: 再帰所有 / SG: 単数 / V>A: 出動形容詞

参照文献

江畑冬生 (2013)「サハ語の動詞屈折形式とその統語機能」『北方言語研究』3: pp. 11–23.

Haspelmath, Martin and Andrea D. Sims (2010) *Understanding Morphology* [2nd ed.]. London: Hodder Education Publishers.

池上二良 (2001)「ウイルタ語動詞活用大要」In: 津曲敏郎編『感北太平洋の言語』7: 157–166.

風間伸次郎 (2003)「アルタイ諸言語の3グループ(チュルク、モンゴル、ツングース)、及び朝鮮語、日本語の文法は本当に似ているのか:対照文法の試み」アレキサンダー・ボビン、長田俊樹 (編)『日本語系統論の現在』京都: 国際日本文化研究センター, 249–342.

———— (2012)「アルタイ型言語における準動詞と言いさしについて」『北方言語研究』2: pp. 139–162.

小林高四郎 (1954)『元朝秘史の研究』(ユーラシヤ学会叢刊2)東京: 日本学術振興会.

栗林均・確精扎布編 (2001)『『元朝秘史』モンゴル語全単語・語尾索引』(東北大学東北アジア研究センター叢書4)仙台: 東北大学東北アジア研究センター.

Ligeti, Louis ed. (1971) *Historie Secrète des Monogols. (Monumenta Linguae Mongolicae Collecta 1).* Budapest, Akadèmiai Kiadò.

Malchukov, Andrej (2013) Verbalization and insubordination in Siberian languages. In: Martin Robbeets ed. *Shared Grammaticalization.* pp. 177–208. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins Publishing company.

長崎郁 (2013)「コリマ・ユカギール語の動詞屈折形式:分詞の統語機能と形態」『北方言語研究』3: pp. 41–54.

小澤重男 (1993)『元朝秘史蒙古語文法講義』東京: 風間書房.

————訳 (1997a)『元朝秘史(上)』東京: 岩波書店.

————訳 (1997b)『元朝秘史(下)』東京: 岩波書店.

Poppe, Nicholas (1954) *Grammar of Written Mongolian.* Wiesbaden: Otto Harrassowitz.

佐藤知己 (2008)『アイヌ語文法の基礎』大学書林.

Rachelwitz, Igor de. (2004) *The Secret History of the Mongols: A Mongolian Epic Chronicle of the Thirteenth Century.* Leiden and Boston: Brill.

植村清二 (1955)「元朝秘史小記」『東方學』10: 108–119.

山越康裕 (2002)「シネヘン・ブリヤート語テキスト」津曲敏郎編『環北太平洋の言語』8: pp. 95–129.

———— (2006)「シネヘン・ブリヤート語テキスト:日常会話を題材にした基本文例集」In: 津曲敏郎編.『環北太平洋の言語』13: pp. 139–180.

———— (2013)「シネヘン・ブリヤート語の『分詞』の機能について:屈折的形容詞化と位置付けられるか」『北方言語研究』3: pp. 25–40.

———— (2014a)「シネヘン・ブリヤート語テキスト (4):テネグ・タリブほか2編」『北方言語研究』4: pp. 185–198.

———— (2014b)「さまざまな食文化の混在:シネヘン・ブリヤートの食」『フィールドプラス』12: pp. 30–31.